

令和6年能登半島地震 JMAT調整本部 業務調整員 派遣報告

沖縄協同病院 地域連携課
医療ソーシャルワーカー 長原野

今回のスライドは2月に沖縄県医師会で報告したのから抜粋しています。
今回の報告で協会員の皆さんにも防災や減災について考えていただきたいので、配慮の上現地の写真なども載せています。
4/3の津波警報のようなこともありますので、ぜひ身近なこととして、地域や所属機関、ご家族や大事な方とも話してみてください。

令和6年能登半島地震

発生日時 令和6年1月1日 16:06～

1/1 16:06	石川県能登地方	M5.5	震度 5 強
1/1 16:10	石川県能登地方	M7.6	震度 7
1/1 16:12	能登半島沖	M5.7	震度 6 弱
1/1 16:18	石川県能登地方	M6.1	震度 5 強
1/1 16:56	石川県能登地方	M5.8	震度 5 強
1/1 18:08	能登半島沖	M5.8	震度 5 強



✕印が震度6強、震度7のあった場所です。

1/1 16:06 石川県能登半島で震度7の大地震発災、大津波警報発令されました。報道されたように、輪島市で大規模火災、能登半島沿岸の多数地域で海底隆起、家屋倒壊、断水世帯多数発生し、死傷者も多数にのぼりました。

石川県 能登半島



✖印が震度6強、震度7のあった場所、★が石川県庁です。

派遣に至る経緯

1/8、11

沖縄県医師会から沖縄県医療ソーシャルワーカー協会に
派遣協力の打診

協会理事の間で共有

家族と職場に相談のうえ、1/12志願

私は大卒後～沖縄に来る前、2009年まで7年間石川県七尾市に住んでいました。

精神科単科病院に就職し、系列の地域生活支援センター、就労支援施設、グループホームで生活・就労支援でソーシャルワーカーとして働いていました。

穴水町、輪島市、珠洲市にも毎月訪問し、受診援助、生活支援などをしていたので、とても身近な地域で起こった大災害にとってもショックを受けました。

友人知人も多く被災しましたが、幸い皆と連絡を取れました。

あとで出てきますが、今回、支援活動の合間で訪問の機会を頂きました。

業務調整員の心構え

3K：機敏・機転・気配り

- － 限られた時間での対応
- － 限られた資源（人・モノ）による対応
- － 災害現場という被災者・救援者ともに厳しい環境

業務調整員は3Kが大切と言われます。

これらは、私たちMSWが所属機関における縛り（病院機能や入院日数制限、療養環境や他職種のマンパワーなど）にも置き換えることができると思います。

私たちの実践の現場は「災害現場」ではありませんが、クライアントにとっては「非日常」という場面になっているとも考えられます。

情報と資源の管理

情報

- 通信の確保
- **情報の収集・記録・伝達・共有**
- **関係機関との調整**

資源

- 資源の確保
- 資源の移動/輸送
- 活動現場の環境整備（活動・生活）

今回の活動では特に太字部分についての期待が大きかったと思います。毎日、刻々と変化する状況で適切な情報の収集、記録、伝達、共有は非常に重要であると実感しました。

活動日程

1/17～26（10日間） 8:30～20:30頃

1/17水 15:30 石川県庁 11階災害医療対策本部 着
JMAT調整本部ロジ業務 開始

1/21日 9:00～15:30

七尾、穴水の調整支部訪問、現地視察

1/22月 AM 金沢の1.5次大規模避難所 視察

1/26金 11:30 JMAT調整本部ロジ業務 終了

活動日程は10日間でしたが、初日と最終日は移動もあったため、それぞれ半日程度でした。

朝から夜まで多くの職員が本部に詰めていました。

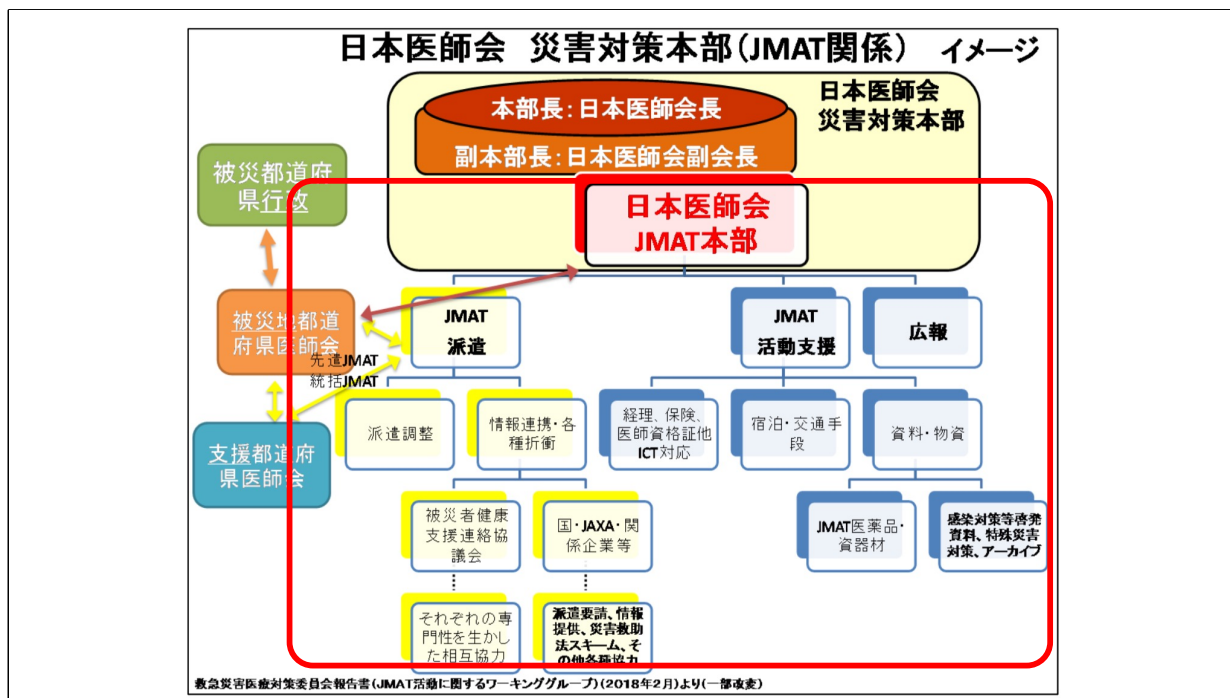


金沢市鞍月にある石川県庁の11階に石川県医師会の災害対策本部がありました。

廊下には発災からの膨大なクロノロ（経過記録）が張り出されていました。到着した日は快晴で、青空に県庁の建物がよく映えていました。

そんな金沢市でも道路のうねりや地盤の隆起によるアスファルトの大きな亀裂がみられました。

地元のタクシードライバーは「日に日にうねりがひどくなっているところもある」と話していました。



JMATは日本医師会の災害対策本部の中に組織されています。

調整本部の人員構成

- 参事 Dr.
- 日本医師会 事務管理職など
- 石川県医師会 会長、副会長、理事、事務職
- 各県からのJMAT派遣チーム
沖縄→徳島→埼玉1→埼玉2
医師、看護師、救急救命士、薬剤師、事務職など

JMATは地元の医師会や保険医療機関がマネジメントできるようにグラデーションを作っていくために、このような構成でした

JMAT調整本部（県庁）

- 医療支援チームの受付、ブリーフィング資料の説明
- 前日に到着チーム名、チーム数の把握
- 当日活動チームの割り振り、活動報告の管理
- 情報の集約、翌日以降の活動方針検討
- 他団体との連携、調整

昨日より今日、今日より明日が少しでも良くなるように

JMAT調整本部の主な活動内容です

私が滞在中に一番長く一緒に活動した埼玉県チームのリーダーの医師の言葉が印象的でした。

「昨日より今日、今日より明日が少しでも良くなるように」
特殊な環境で神経もすり減るスタッフを和ませるいい言葉に思えました。

本屋内 レイアウト



DMATや日本赤十字社、DPAT、DICT、JRATが同じ大会議室の中で島を作っています。
赤枠の中がJMATでしたが、まだまだ十分とは言えないながらも他団体との連携も必要時行っていました。

支援チーム帰着の活動報告 17:00～



中会議室で毎日行われていたJMATのミーティングです



大会議室でのDMATが取り仕切る全体会議です。それぞれの団体から活動報告や課題提起があり、翌日以降の方針検討がなされます。

調整本部、支部会議 18:30～



JMAT調整本部（金沢）と調整支部（七尾、穴水、金沢以南）の会議です。先程の全体会議は続いていますが、方針確認して、各支部との共有や検討事項の討議などを行いました。本日の活動チームからの報告を踏まえて、明日以降の活動内容の優先度が日々変化していました。

帰る前に明日の準備 20:00ごろ



先程の会議を踏まえて、明日以降のチームに伝達するための準備をしたり、細々とした作業をしているとあっという間に20時を回っていました。晩ご飯もまだなので、片付けをして21時前にはホテルに戻り、外食に出かけます。食事をしながらいろいろな話をしていると23時前、ホテルに帰って洗濯などなどして寝られるのは大体1時前後でした。特殊な環境の中で疲労を感じにくくなっているようで、帰る前日までの9日間ほぼこのようなスケジュールでした。

文書類の整備

- 支援チーム受付票

<様式1>「日本医師会災害医療チーム（JMAT）」

救急隊員名	受付	年	月	日	時間	：
-------	----	---	---	---	----	---

(令和6年関東半島地震JMAT)

「日本医師会災害医療チーム（JMAT）」受付票

チーム名	救急	救急	救急	救急
------	----	----	----	----

チーム構成一覧（1に所属医者を記入ください）

氏名	年齢	性別	所属	職種	緊急連絡先 (携帯・メール・LINE)	専門分野
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

活動期間	月 日 ~ 月 日
活動開始時刻	月 日 / 月 日
活動終了時刻	月 日 / 月 日
活動場所	あり→ Dr.チーム・ なし・未定
活動内容	

文書類の整備も並行して行いました。
支援チーム受付票も使いながらさまざまな意見要望があり、日ごとにアップデートして行きました。
その度に日本協会事務の方や参事に報告、相談して行きました。

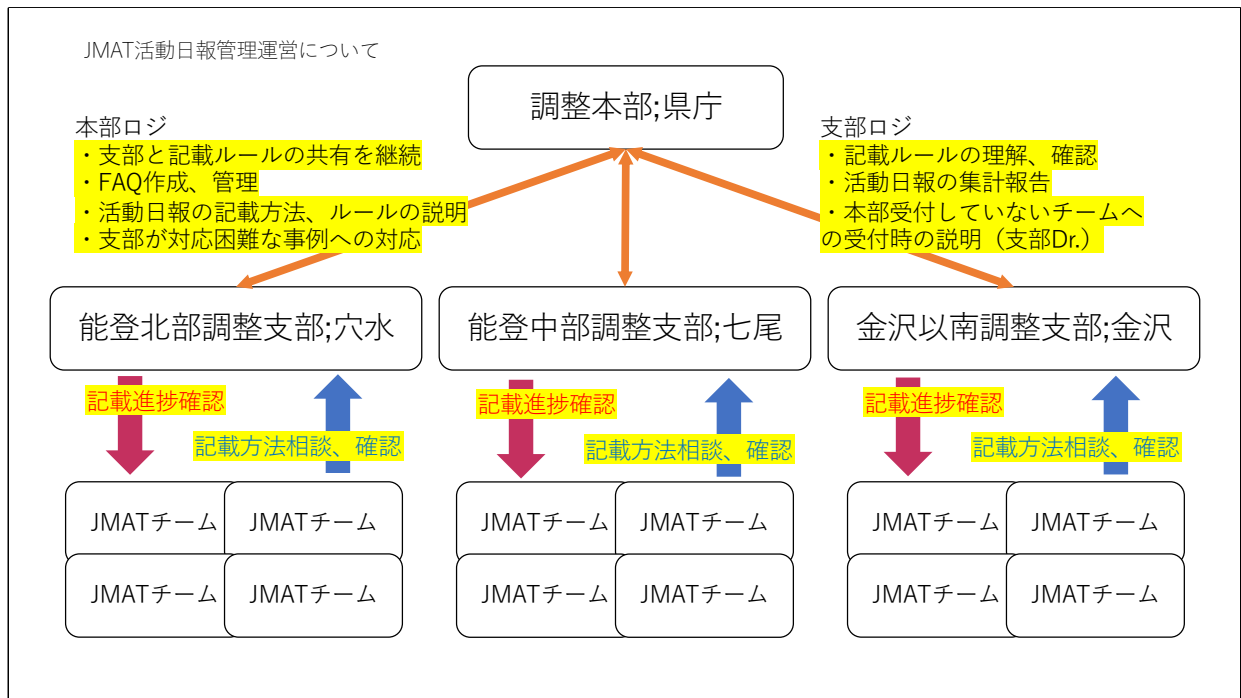
文書類の整備

- 支援チーム活動日報



支援チームの活動日報も課題の抽出がしやすいように様式変更と日報記載のルールづくり、周知、運用管理など毎日新たな課題と対策づくりの繰り返りで、私がいた10日間でもだいぶ進化しましたが、まだ完成していませんでした。

しかしながらこれは非常に重要なツールだとみんなが認識していたので、作業の優先度は比較的上位で居続けました。



調整本部と調整支部の間でログ（業務調整員）も入れ替わりが多く、役割分担や作業工程の共有がとても大変でした。
 図式化して、できていること、できていないことを整理して、対策を検討するなどZoomでミーティングを行いました。

とある1日

- 朝のミーティング
- 当日支援チームの受付
- 前日活動報告から課題抽出、分類（レベル、種別、地域）
夕方の方の会議資料の作成
- 当日活動報告の確認、夕方の方の会議資料の作成
- 調整支部のロジとzoomミーティング
- 夕方の方のミーティング参加 翌日方針確認
- 活動日報作成、翌日受付準備など

とある1日です。

先程までの経過をまとめています。

このほかに、毎日いろいろな出来事があり、その場その場で対応しながら、なんとかやりくりしていました。

七尾、穴水の視察 (1/21)

- JMAT能登中部調整支部
(能登中部保健福祉センター)
- JMAT能登北部調整支部
(穴水総合病院)

割れてアスファルト入れてます…



そんな中、沖縄県医師会の理事の医師が派遣されたタイミングで視察に同行することができました。

調整支部の現地視察のため、七尾市と穴水町に半日かけていくことができました。

民家の損壊も多く、神社や病院、公共施設などの建物や敷地にも多くの傷跡が多く見られました。

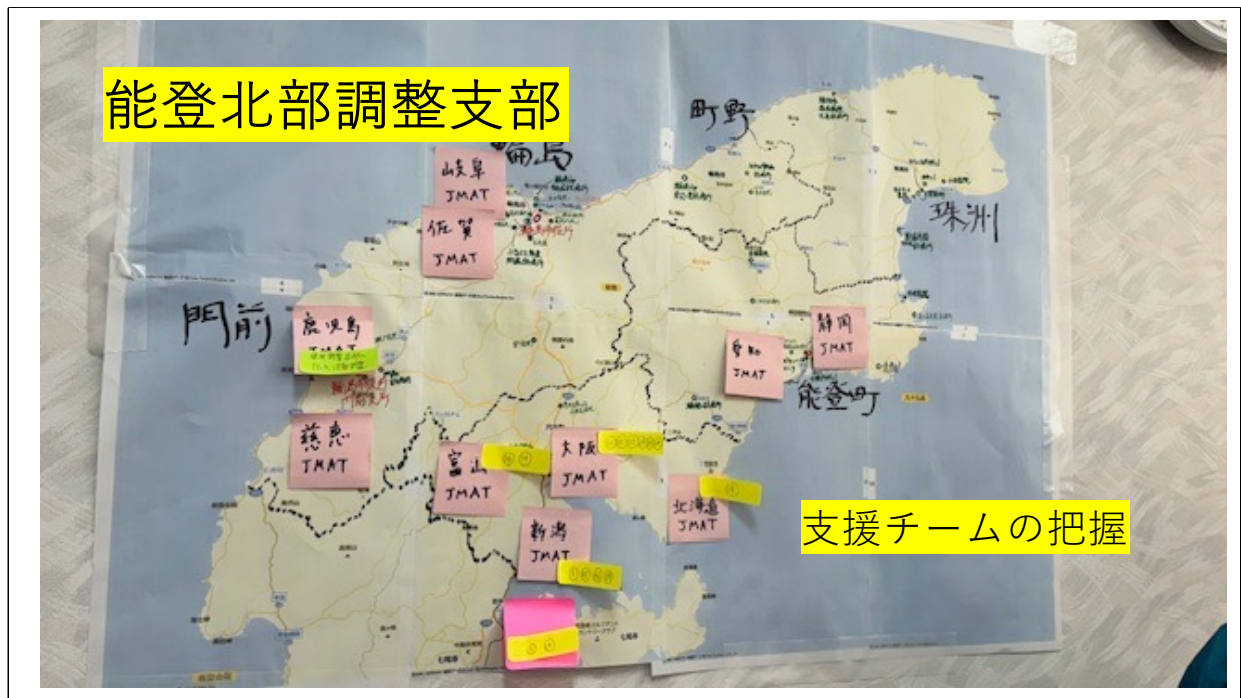
断水も続いており、かろうじて営業できているコンビニや飲食店もトイレは使用不可でした。

穴水町では道路沿いの民家も倒壊したものが目立ち地震の大きさがまざまざと感じられました。

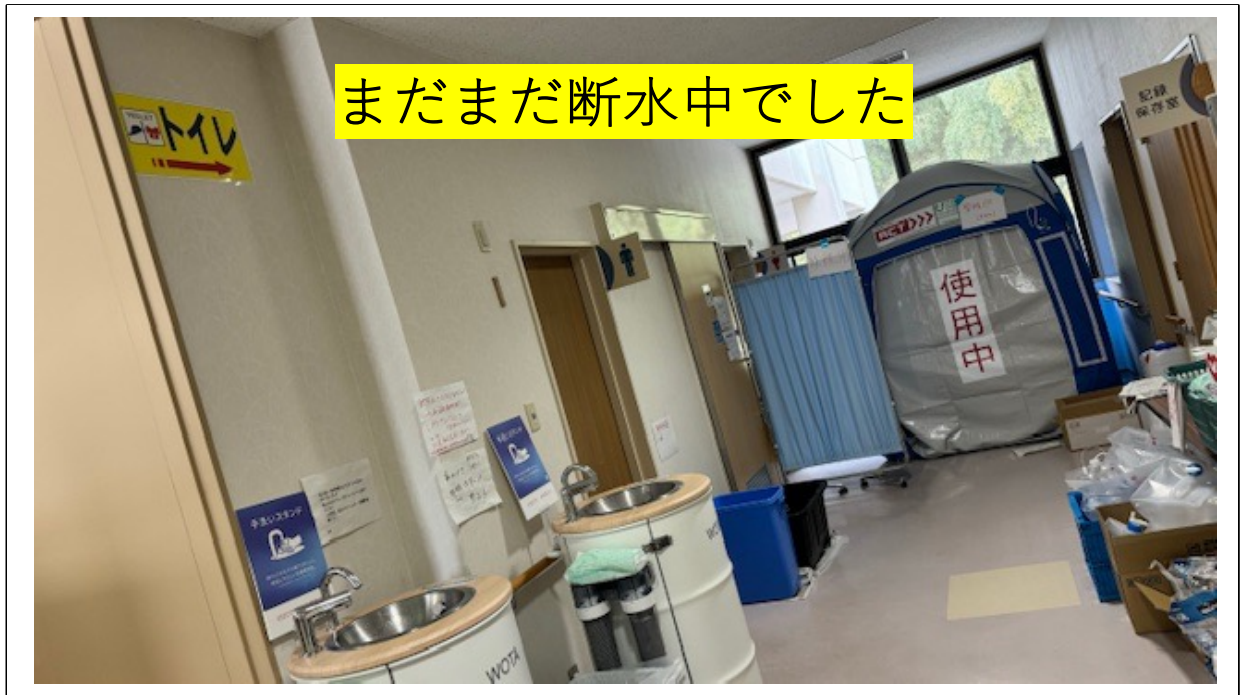
能登北部調整支部



中会議室のスペースに多数の団体のチームが入っていました。
横の連携もよく取れていたようです。



今日どこにどこのチームが入っているのかを把握する地図です。
翌日交代するのか、活動継続するのかなどを把握し、次に来るチームの割り振りを考えます。



穴水町の保健センターでしたが、断水は続いていました。
小は柄杓（ひしゃく）で水を流し、大は奥に設置した簡易トイレで処理されて
いました。



病院の駐車場に自衛隊がお風呂を設置してくれていました。
実は右斜め上のお寺は境内が損壊していました。

大規模避難所の視察（1/22）

いしかわ総合スポーツセンター
（金沢市）1.5次避難所



大規模避難所の視察にもいくことができました。

1.5次避難所は災害発生直後に開設された1次避難所などから、自宅の復旧や仮設住宅、2次避難所などへの入居までの間、被災者の生活環境を確保するために設けられる施設です。

高齢者や障害者、乳幼児など介護や配慮が必要な人を優先します。

2次避難所はホテルや旅館、公営住宅を活用し、被災者を広く受け入れるもので石川県では南部に多数の温泉旅館があり受け皿となっていました。



この避難所は大規模で、231張のテントで約350名が利用可能でした。
看護師が常駐しているようでした。

住所のかわりのひらがな



同じテントがたくさん並んでいるため、住所のようにひらがながつけてありました。
しかしこれだけでは、慣れない人々はわかりにくいのではと思いました。

JRAT (リハビリ) の活動



視察の日にJRAT(災害リハビリテーション)がこの避難所でも活動を開始していました。

井戸端会議ができるスペースや作業療法のようなことができる場所がありました。

右の写真では歩行訓練をしているのかと思ったら、生活しているテントまで一緒に歩いて帰るところだという話でした。

避難による環境変化の影響を大きく受けやすい、介助が必要な高齢者の心身の廃用予防は非常に重要だと感じました。

食事はホテルのケータリング



食事は金沢市内の有名ホテルからケータリングが来ていました。食事の提供時間は3食とも決められていました。ちょうど昼食提供の準備をしていました。
避難所内は飲酒禁止でした。

相談内容ごとに分類



相談内容ごとに分類されたブースが設置されていました。保健師さんのブースもありました。

偶然日本協会の理事も視察に来ていました。

今後の各県協会への派遣依頼について石川県協会の方と相談しているようでした。



なんでも福祉相談として、ケアマネジャー、社会福祉士、精神保健福祉士などが控えていました。



2次避難所の相談窓口もありましたが、月曜昼前という時間帯のせいなのか、あまり相談者はいませんでした。
多い時はたくさんの方が順番待ちをしているようです。



スマホの充電もとても大切なことです。避難所内のWi-Fiも大切だと思いました。
消灯時間や子どもの遊び場の案内など「ここで生活しないといけない」現実があることを感じました。



この冬1番くらいの大雪にも遭遇しました。
私は長野県生まれ育ちで、石川県でも雪道の運転は毎年していたのですが、久しぶりだったので慎重に運転しました。
朝停めたレンタカーが夜には雪に埋もれていました。ホテルの周りも朝と夜では別世界でした。
この雪が被災地に与える影響を考えると、支援チームの活動内容も変わっていくと思いました。

感じたこと

- 多くの人が短期間で入れ替わる
- 昨日までの状況が明日も続かない
- 指示の根拠や目的の確認が大事
- 情報の収集と分析の速さが求められる
- **事務機器の不具合が絶妙にキツイ**
- 標準的ルールを作りながら、例外対応するしんどさ

今回の派遣では、災害時における特殊な状況で活動するという非常に貴重な経験をすることができました。

業務調整員としての役割を自他ともに共有しながら、日々変化する状況に合わせた優先度の変更が必要でした。

依頼や指示の根拠や目的を確認しないと、二度手間、三度手間、になること、収集した情報の分析と整理に速さを求められました。

持ち寄った事務機器、特にプリンター（家庭用：新品）が度々不具合を起こし、必要書類の印刷、コピーに手間がかかるなども大変でした。

受付や報告についての標準的ルールの策定を求められながら、例外対応の必要な場面も多くその両立がなかなかしんどかったです。

課題だと感じたこと

- 組織図のテンプレ → 指示命令系統の理解
- 作業グループ、役割（ハコ）
- Googleドライブのフォルダ分類は早めに
- 汎用マニュアル
- **フォーマットは予め統一しておく**
チーム受付票、活動日報、課題分析

本部機能を発揮する上で、事前に準備できることがたくさんあると感じました。私が活動した10日間で本部機能がだいぶ確立されたという実感があります。先に触れた埼玉県チームの功績だと思えます。

発災後2週間の混乱の中で前任の方々がなんとか立ち上げた下地もあってのことだとも思いますが、やはり事前に使用するツールや組織構成のテンプレートがあるだけでだいぶ楽だと感じました。

これを課題として、日本医師会とも共有していただけるよう沖縄県医師会の方と話すことができました。

学んだこと

- 災害時の心身状態の自覚・制御の難しさ
- 状況の俯瞰的把握と自分の役割を認識、それを周囲と確認することの重要性
- 組織化の重要性
指示命令系統 業務分担 マニュアル フォーマット
- 5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）が大切

真冬の石川県で10日間、特殊な状況で朝から晩まで活動しましたが、幸い体調を崩すことはありませんでした。昼食や休憩のタイミングは各自に任されていたが、なかなか難しい場面もありました。身体的な疲労感はありましたが、何かしているとごまかされて動き続けることができていました。目の前の作業だけに集中しすぎず、隣の人や向かいの人が何をしているのかを何となく把握していることで、作業の重複や助言しあうことができました。自分のしていることが誰かと重複していることもあり、役割分担の確認も定期的にすることが重要でした。

文具や物品、果てはGoogleドライブのフォルダやファイルの整理整頓、デスク周りのお菓子の袋の片付け、飲みかけのお茶の処分が大事でした。ある程度同じ場所に同じものがあると作業効率も低下しないで済みますし、みんなでその認識を共有する（しつけ）ことも大事だと実感しました。

これからについて

- 組織、地域で経験の共有
- 課題の対策を具体的に進める
- 役割分担 地域にある団体を超えて

これらの経験を県協会や所属組織で共有することは非常に重要だと思いました。

沖縄県医師会では2/26に報告会を行っています。

課題の対策を優先度をつけて具体的に進めることも大切です。沖縄県で大きな災害がおこならい保証はありませんので。

地域ごとに役割分担について検討できる機会を職能団体や行政、民間企業なども交えて持つことができるといいなと思いました。

しかし、まずは自分の手の届く範囲、皆さんの手の届く範囲で話し合ったり、準備したりしてもらうことが大切だと思います。

発災から4ヶ月経ち、被災された方々はまだまだ不便な生活を強いられています。さまざまな援助が必要ですが、できることをできるときにしていきたいと思います。

私は新卒からの7年間成長させてもらいました。能登の豊富な山海の幸や美しい名所、そこで生活する人々のたくましさを知ってます。きっと能登は復興します。

義捐金の寄付でなくても、お取り寄せで何か買ってみる、旅行に行ってみる、皆さんも何かできることがあればよろしくお願いします。



最後に今回の派遣は家族や職場の皆さん、沖縄県医師会の方などたくさんの方の理解と支援によって実現できました。
現地でもたくさんの方と協力して励まし合って活動ができたことを大変ありがたく思います。
本当にありがとうございました。



能登はやさしや「魚」までも

能登海の幸は本当に美味しいです。
皆さんも機会があればぜひ一度ご賞味ください。